



NPO法人

# 千葉を美しくする会

## 平成30年度 掃除に学ぶ会活動および支援状況 (2018年1月~6月)

開催日	開催場所	実行委員長	世話人地区	参加人数
1月21日(日)	JR南柏駅	富田裕之	れいたく	20人
1月28日(日)	成田国際高等学校	古谷 健	印旛	138人
2月26日(月)	袖ヶ浦市立蔵波中学校	相川先生	上総	35人
2月28日(水)	君津市立大和田小学校	尾形先生	上総	52人
3月13日(火)	旭市琴田小学校	野老真理子	山武	25人
3月18日(土)	JR南柏駅	富田裕之	れいたく	20人
3月19日(月)	袖ヶ浦市立根形中学校	鈴木先生	上総	30人
5月20日(日)	麗澤大学・麗澤高校	富田裕之	れいたく	30人
5月28日(月)	日旭市千潟中学校	野老真理子	山武	87人
6月30日(土)	浦安高等学校	大塚直子	京葉	80人

## 平成30年度千葉地区掃除に学ぶ会実施予定 (2018年12月迄の)

8月4日(土)	津田沼小学校	利 清二郎	京葉
8月19日(日)	築地掃除に学ぶ会	渡辺栄司	東京
9月29日(土)	社員大会	伊藤敦浩	日本企画(株)



## 編集後記

長谷川 昭次

猛省して先生方に啓蒙させてもらい、そしてその成果や声を集積して行かなくてはならないと痛感するのです。この事

はNPO千葉を美しくする会の支援の一つの大きな柱となって行く事になりましょう。

## 事務局からのお知らせ

利 和則

1. 会員皆様より、年会費を納付期日(6/30)内にお支払いいただき、誠にありがとうございました。一部未納の会員様がおられます。お急ぎ頂けます。
2. 岩崎大治様が新規で正会員にご加入頂きました。ありがとうございました。



## お問合せ先

年2回発行(1月1日・7月1日)  
 発行所 NPO法人 千葉を美しくする会  
 発行責任者 利 清二郎  
 編集責任者 長谷川昭次  
 編集担当者 利 和則

〒273-0005  
 船橋市本町6-21-16(日本企画(株)内)  
 TEL:047-426-0026 FAX:047-426-6071  
 URL:  
<http://www.chiba-uthukushi.globs.jp/>



## ご挨拶



皆様、こんにちは。梅雨真っ只中ですが、ますますお元気でご活躍のこととお察し申し上げます。日頃は会活動にご尽力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、今回は全国各地の同胞より体験報告が届いており、それを選抜して掲載させていただきました。特に愛媛県、新居浜市立角野小学校の眞鍋裕介先生の手記(本頁に掲載)、そして沖縄県那覇

市の私立興南学園の我喜屋優理事長の寄稿文(3頁に掲載)は、私たちが学んでいる掃除道について単純明快にとっても分かりやすく説かれていると思います。是非、熟読していただきご自分の精進と周りの皆様への啓蒙活動のご参考にしていただければと思います。最後に当NPO法人千葉を美しくする会の会員募集要項に日本を美しくする会 相談役(鍵山 秀三郎氏)の心願が次のように記されております……「今、私の願いは、学

理事長 利 清二郎

校長のご理解をいただき、職員先生やPTAそして地域の方々のご協力をえて、各地の学校のトイレを徹底的にキレイにすることです。」と。私もこの心願の実現のために良き出会いの御縁を求めて、ひたすら邁進する所存です。どうかこの会報を読まれてご提案、代案、ご意見等があれば、事務局までご一報賜れば幸甚に存じます。

感謝



## 「掃除で教師が変わる」

(愛媛県)新居浜市立角野小学校

教諭 眞鍋 裕介

教師生活が十年を過ぎました。夢にも思いませんでしたが、十一年目にして初の小学校勤務をしています。この十年教師として何に力を入れてきましたか?と聞かれたら「掃除」と「道徳」と答えます。専門教科よりも力を入れてきたと言っても過言ではありません。

「掃除ができる人はなんでもできる。掃除ができない人は何もできない。」私の教師人生の軸を掃除に傾けてくださった先輩教諭の教室に貼ってあった言葉です。信念も、志もなく、あまい気持ちで教師をしていた自分は、一年目、担任をしたクラスが学級崩壊寸前の状態になりました。その先輩教諭は一言「俺のクラ

スの掃除を見に来い。」と言ってくれました。「なぜ掃除?」と思いながら見に行くと、教室で黙々と掃除をしている生徒の姿がありました。「なんで先生のクラスの子はあんなに一所懸命掃除するんですか?」と聞くと「悔しいか?」と言われたので「悔しいです。」と素直に答えました。「悔しかったら(お前が掃除を)やってみろ。」と言われました。とにかく悔しかったので、その日から「だまってやりなさい。ここがまだできてない。」など言うのをやめて、自分が掃除に取り組むことにしました。数か月たち何度かその先生のクラスを覗きに行かせていただき、あることに気付きました。その先生

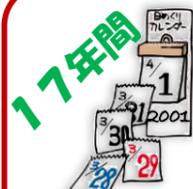
はいつ見ても黙って一緒に膝をつき、腕をまくり、黙々と掃除をしているのです。誰よりも一所懸命掃除に取り組んでいる姿は、誰が見てもわかるものでした。教えることは心と姿で見せること。大切だと子供に伝えたいことは、自分も大切にしなければならぬと背中であっていただきました。この出逢いがなければ今の教師としての自分はいないと思います。これが私の原点です。



※出典 便教会新聞第一三四号



### 会員さんからの寄稿



## 掃除は人生そのもの

梅原 弘子 行政書士 梅原事務所  
京葉掃除に学ぶ会世話人  
NPO法人・千葉を美しくする会・正会員

私は数えてみると17年間という長い年月、その日の一番電車が来る前JR津田沼の駅周辺をお掃除する奉仕活動をしてきた。すがすがしい気持ちで一日が始まるので掃除することでエネルギーを消耗するというよりはむしろエネルギーの貯金をしているように感じた。

そのころ千葉を美しくする会が始まり学校の掃除に学ぶ会に参加していろいろな体験をし鍵山掃除道も学んだ。今はその時に蓄えたエネルギーを取り崩して使っているのかもしれない。だから少しは同年代の他の人と比べてみたときに年の割に元気といわれるのはその為かと思う。

その後仕事先のお客さんから私の家から少し離れたところにある薬円台の公園でラジオ体操を行っているとき聞き出かけて行った。朝の公園に集まる人たちに混ざって体操をしていると、周囲に落ちているごみのことが気になる。ひとりごみ拾いを始めたら何か迷惑そうにも見えたので拾うのをやめたが、ごみが気にならなくなることはなかった。今はだんだんと気が付いて拾っている人が目立つようになり、とても大きな公園だけれどきれいだ。

ある日私が住んでいる地域の民生委員から近所の公園の花壇の水まきを頼まれ、ラジオ体操から帰ると、今度は自宅近くの公園へ出かけるようになった。真夏のとても暑い時期だったので。水まきは毎日の仕事になった。毎日花壇の水まきを続けていると、朝ちようどラ

りした。その他にも朝の公園でのほっこりする出会いやちょっとした出来事は、後から後から花壇の水まきと共に尽きることがない。

やがて寒い冬が訪れ自治会長さんに寒くなるからそんなに水をやらなくても良いよと言われたが気になってとにかく花壇の様子を見に公園に行った。花壇の上の方には大きな木の枝がおおい被さるような感じで、雪の日は重い雪に耐えられるかと心配したが冬が過ぎ暖かくなると花壇は日増しにしっかりと生きて素敵な花を見せてくれるようになった。

毎朝公園に行くときは必ずごみ袋をもっていく。自治会で日曜日ごとに交代で掃除している公園はとても綺麗だが、たばこの吸い殻や、たまたま砂場に瓶を壊したガラスの破片がたくさん散らかっているのを見つけたときには、私は、これが自分の使命であるかのように喜んで片付けている。

こうして私はゴミを拾い朝の公園を見てまわり感謝しながら素晴らしい今日一日が始まるのである。



ンドセルを背負った小学生がおしゃべりしながら近づいてきて私のすることを不思議そうに覗く。そのうち仲良くなって握手もしてもらえるようになり私もすごく元気を頂けるようになった。

また私はそれまで動物など全く好きではなかったのになぜだかいつの間にか動物の目線になって可愛らしいと思うようになっていた。いつもお散歩していたワンちゃんがちょっと見えないと思っていたら亡くなったといわれてとてもがっかりした。

また私はそれまで動物など全く好きではなかったのになぜだかいつの間にか動物の目線になって可愛らしいと思うようになっていた。いつもお散歩していたワンちゃんがちょっと見えないと思っていたら亡くなったといわれてとてもがっかり

また私はそれまで動物など全く好きではなかったのになぜだかいつの間にか動物の目線になって可愛らしいと思うようになっていた。いつもお散歩していたワンちゃんがちょっと見えないと思っていたら亡くなったといわれてとてもがっかり



## 日本一ゴミ拾いができるチーム

我喜屋 優



はじめまして、我喜屋優です。まず簡単に自己紹介をさせていただきます。私は沖縄県那覇市にある私立興南学園の理事長と興南中学・高校の校長、さらに高校の野球部監督をしています。もともとは野球部の監督だけをしていたのですが、2010年、春夏の甲子園でチームを優勝に導いたことを評価していただき、学園全体の教育にたずさわることになりました。私は毎日、中・高生と接し、彼らの悩み相談に乗ることもあるので、若い読者の皆さんのお役に立てるのではないかと思います。

さて、整理整頓と掃除についてですが、もし、あなたが勉強や部活動で優秀な成績を収めたい、また将来、社会人として活躍したいと願うなら、決しておろそかにしてはいけません。

今の若い世代、特に男子は整理整頓や掃除を「面倒くさい」「できればやりたくない」と思っている人が多く、中には「おれは散らかっているほうが落ち着く」と言う人さえいます。しかし、これは生活の乱れ以外の何ものでもありません。しかもこういう環境にいと、その人が本来持っている力を発揮できないのです。それはなぜか？ 興南高校野球部のエピソードを紹介しましょう。

2007年4月、私は34年にわたり社会人野球の選手・監督として活動してきた北海道を離れ、母校である興南高校野球部の監督に就任しました。当時

の興南高校は24年も甲子園から遠ざかっていたので、私は強いチームを作るため、「どうやってチームワークを高めよう？」「どんな練習メニューにすべきか」と考えを巡らしていました。北海道ではコーチや監督を長くやっており、野球の指導には自信があったのです。

ところが、野球部の寮を見てビックリ。部屋は散らかり放題。天井にはヤモリが這い回り、床でゴキブリが運動会をしているような状態でした。

「こんなところで暮らしているは、いくら練習しても野球が強くなるはずがない」と思った私は部員たちを集め、「今のお前たちは、野球の技術では一番になれない。でも、ゴミ拾いなら勝てる。まずは日本一のゴミ拾いができるチームになろう」

そう言って、寮の整理整頓と掃除、野球道具の手入れとグラウンドの整備を徹底するよう指導しました。

### 身の周りを整えれば成績が上がる

やがて、寮は見違えるようになり、グラウンドには雑草がほとんどなくなりました。部員たちは、整理整頓が行き届いた状態を「心地よい」と感じたようで、それからは私が何も言わなくても自発的に片付けたり、

掃除をするようになり、さらには学校周辺のゴミまで拾うようになったのです。

彼らが県大会を勝ち抜いて甲子園を決めたのは、それからわずか3か月後です。チームが急に強くなったので、「我喜屋マジック」などと言われましたが、タネも仕掛けもありません。「ゴミが落ちていないか」「ものは散らかっていないか」と常に周囲に気を配ることで、観察力と洞察力が鍛えられます。すると試合でも、相手投手の腕の動きを見て投球コースを予測したり、打者の構えから打球のおおよその方向を推測するなど、わずかな変化を捉え、先を読んだプレーができるようになるのです。

この能力は勉強にも効果があります。授業を受けている時、どこが重要なポイントなのか自ずと察することができます。また教科書を読めば、不思議と覚えるべき箇所やテストに出そうな問題に目が止まるのです。

逆に整理整頓ができていない人は、注意力が散漫で細かいところに目が行き届きません。ですから、必ずといっていいほど試合や試験といった大事な場面ですつまらないミスをします。私はこういう例をたくさん見てきたので、自信と確信を持って生徒たちに整理整頓と掃除の大切さを説いているのです。



イラスト 佐藤雅則



※出典 実践倫理宏正会「倫風」四月号

